

北八ヶ岳山行報告

2009年2月28日(土)ー3月2日(月)

メンバー：三枝良輔 (M3)

只左一也 (M2)

三谷知広 (M1)

1日目：茅野駅→(バス)→渋の湯→中山峠→
東天狗岳→中山峠→高見石 (幕営)

2日目：高見石→麦草峠→ロープウェイ駅→
北横岳→亀甲池→双子池 (幕営)

3日目：双子池→大河原峠→蓼科山→
女神茶屋→プール平バス停→
(バス)→茅野駅 (解散)

2日目 (3月1日(日))

起床	03:30	
高見石小屋		05:50 発
丸山山頂	06:15 着	
麦草峠	06:50 着	07:00 発
あずま屋	08:00 着	08:15 発
ロープウェイ駅	08:55 着	
北横岳ヒュッテ	09:40 着	09:50 発
北横岳山頂	10:20 着	
亀甲池	12:00 着	12:40 発
双子池	13:20 着	(幕営)
(歩行時間：6時間)		

6時前に暗い中を出発。雲がかかっているようで、星は見えなかった。この日はスノーシューを楽しむようにコースを取った。

丸山山頂に着くころには明るくなしたが、ガスで展望はなかった。やや急な斜面を下り、広い麦草峠に出た。ここもスノーシューツアーをやっているようで、小屋からスノーシューを履いた人たちがぞろぞろ出てきた。私たちは国道沿いの樹林帯の道を西に進み、狭霧苑に向かう。

途中から国道を歩き、狭霧苑から再び樹林帯の道を北へ進む。さすがに人気コースということもあって、スノーシューやスキーのトレースがたくさんついていた。途中のあずま屋で少し休憩し、ロープウェイ駅へ向かう。



6時前に高見石小屋を出発。まだ真っ暗。



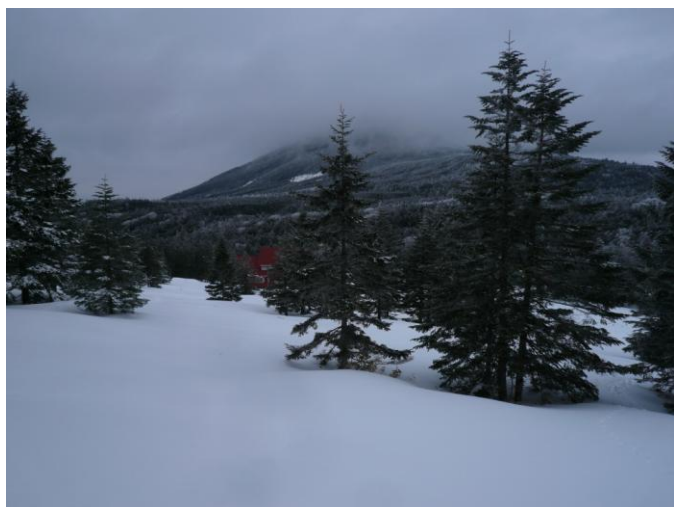
丸山経由で麦草峠へ向かう。



丸山山頂。残念ながら曇っていて展望はない。



スノーシューに慣れてきた。下りでもあまり転ばなくなった。



麦草ヒュッテが見えてきた。



やはりトレースのないところを歩くのがいい。嬉しくて駆け出す(?)三枝。



麦草ヒュッテでもスノーシューツアーをやっている。このあと、スノーシューを履いた 10 人ほどの団体さんが小屋から出てきた。



「斧断ちの森」。



麦草峠から国道と平行している森の中の道を通して狭霧苑に向かう。



「駒鳥の池」と呼ばれる池のあるところ



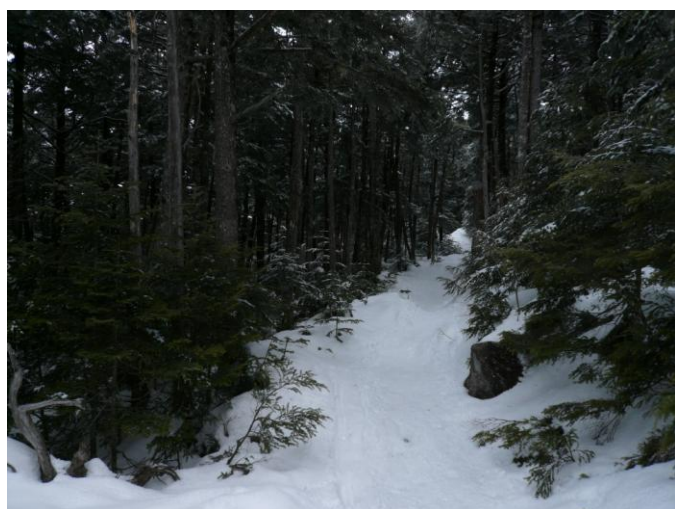
国道に出た。狭霧苑まで、このまま道路の上を歩くことにした。



平らな道が続く。

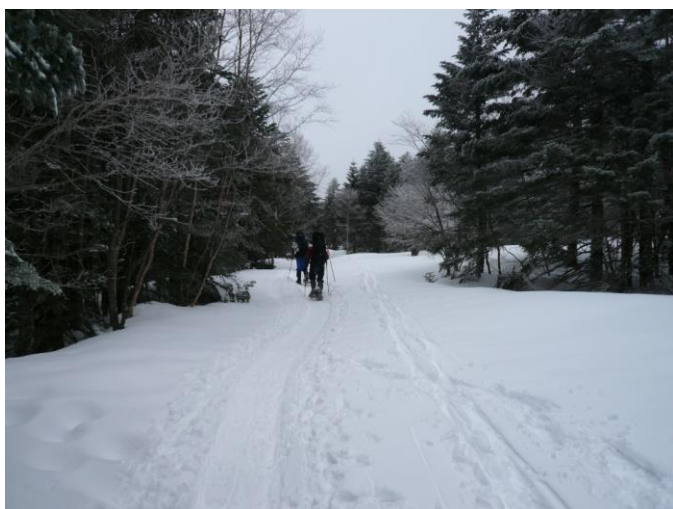
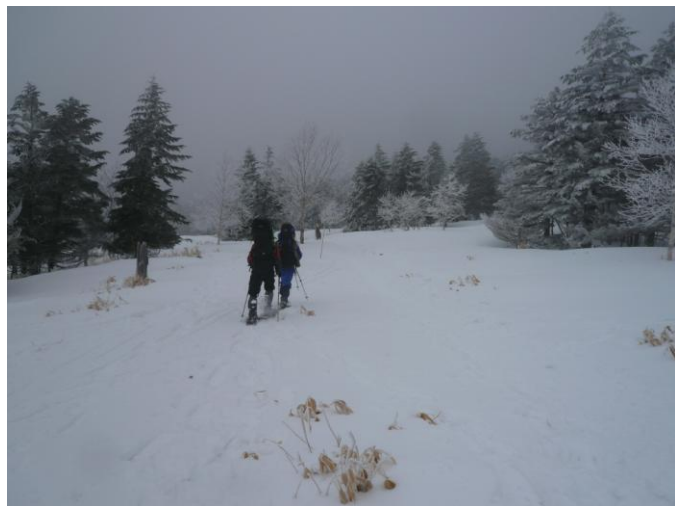


狭霧苑の前で、森の中に入る。出逢いの辻、五辻経由で、ロープウェイ駅を目指す。

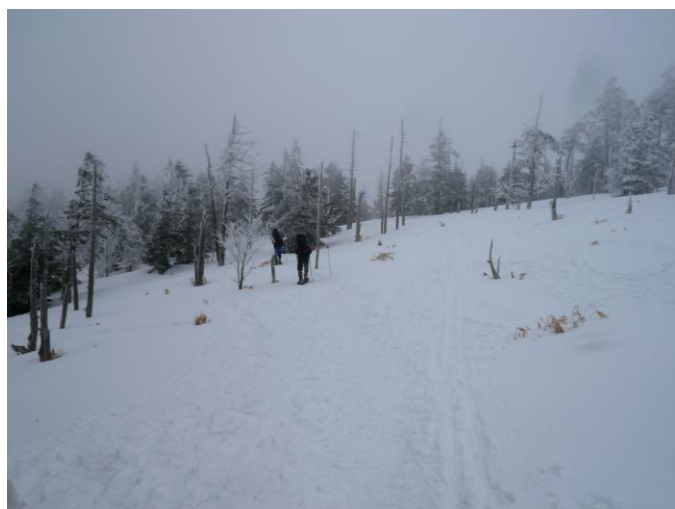




五辻近くのあずま屋で休憩



茶臼山山頂への分岐点。右に進むと茶臼山。





ロープウェイ山頂駅。ちょうどロープウェイが動き出した。



ロープウェイ駅に到着すると、ちょうど動き出したところのようだった。ここから坪庭を経由して、北横岳に登る。坪庭の光景は幻想的だった。下ってくる10人ほどの高齢者の団体とすれ違った。

坪庭を抜けると樹林帯の登りとなる。調子の上がない私にはかなりきつかった。北横岳ヒュッテで休憩して、山頂を目指す。



幻想的な坪庭の光景

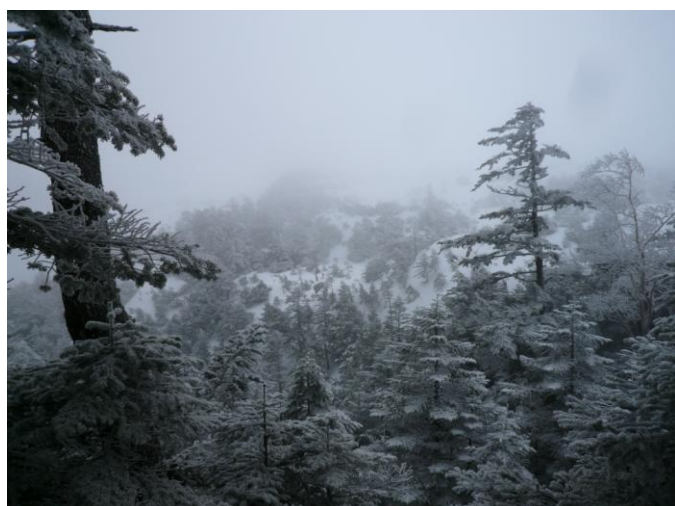


坪庭経由で北横岳山頂へ登る。





坪庭を抜けると、樹林帯の登りとなる。





北横岳ヒュッテで少し休憩。ここも結構泊まり客がいたようで、
下ってくる 10 人ほどの高齢者の集団とすれ違った。



雨池峠への分岐点。



ヒュッテから山頂までは、短いがやや急な登り。

山頂手前の展望台は、天気良ければ素晴らしい眺めのはずなので、ガスがかかっていたのは残念だったが、なんとも言えない幻想的な雰囲気は漂って、気分は悪くなかった。山頂に着くとすぐに単独行の人が登って来たので、写真を撮ってもらった。

寒いので休憩せずに、すぐに急斜面を下り始めた。ここから先へ進む人はあまりいないので、トレースは薄かった。それに雪が深く、スノーシューを履いていても膝まで潜ることもあった。斜面が急で歩きにくいので、まっすぐルートをとれるところでは尻で滑って下りた。下って行くうちに、青空が覗き始めた。



山頂手前の展望台。天気良ければ素晴らしい眺めのはずだが…。



北横岳山頂に到着。



右から三枝、三谷、只左



北横岳山頂からは急な下りとなる。雪は深かったが、トレースはついていて。スノーシューをつけたまま下るが、歩きにくい。



青空が覗き始めた。



まっすぐルートがとれるところは尻で滑って下る。

12 時ちょうど、亀甲池に到着。急斜面の下りで少し疲れたので長めに休憩を取った。私たちが休んでいると、スキーを履いた学生らしき集団が池の脇を通り過ぎた。声をかけると、同志社大学のワンゲルということだった。

たっぷり休んで体力も少し回復したので、目的地の双子池に向かって出発。すぐに、同志社のパーティーに追いついた。樹林帯の登りをスキーを履いて登っていたが、とても歩きにくそうだった。

ゆるい坂を登り、峠を超えると、急に動物の足跡が多くなった。間もなく、美しい樹林に囲まれた双子池に到着。キャンプ場にテントを張った。この日は到着が早かったので、午後はゆっくりすごすことができた。



北横岳（右のピーク）



ようやく亀甲池に到着。



氷結した双子池上で休憩。休んでいると、スキーを履いた同志社大学のワンゲルの 10 人ほどのパーティーが池の脇を通った。彼らもこの日は双子池で幕営予定とのことだった。

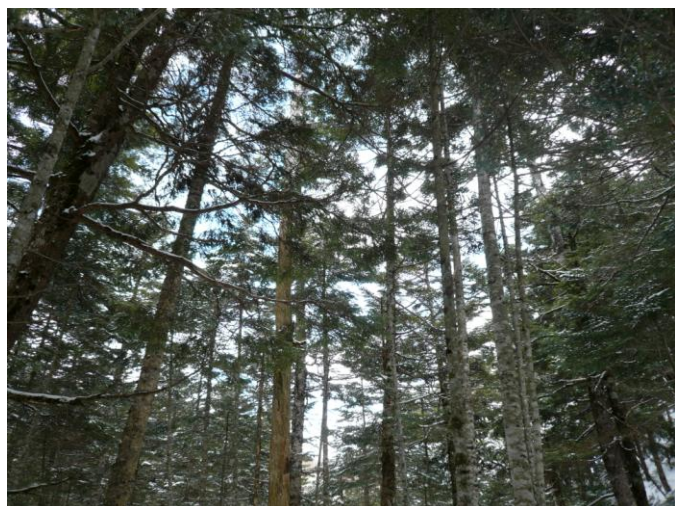


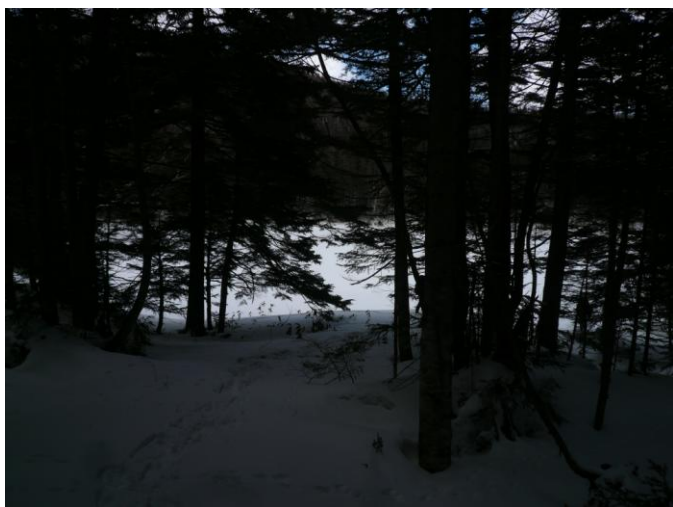
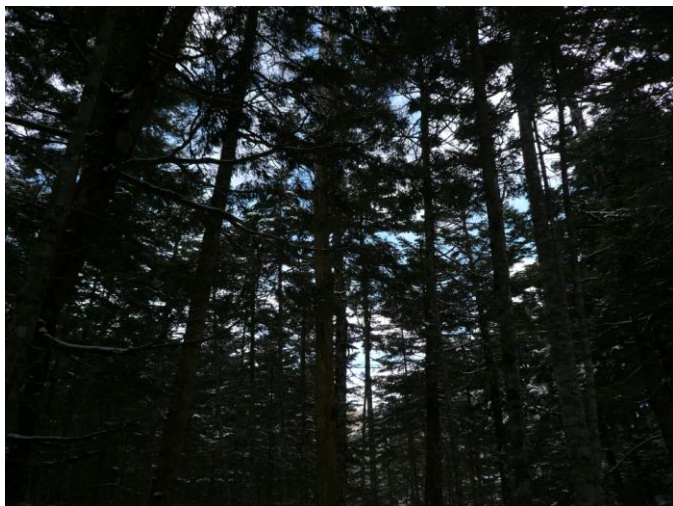


ゆるい斜面を少し上ると、先ほどの同志社のパーティーに追いついた。この樹林帯の道をスキーで登るのは大変そうだった。



双子池に向かって出発





双子池に到着

双子池。テント場は北岸にある。



池のほとりに、動物の足跡がたくさんあった。これはウサギ。

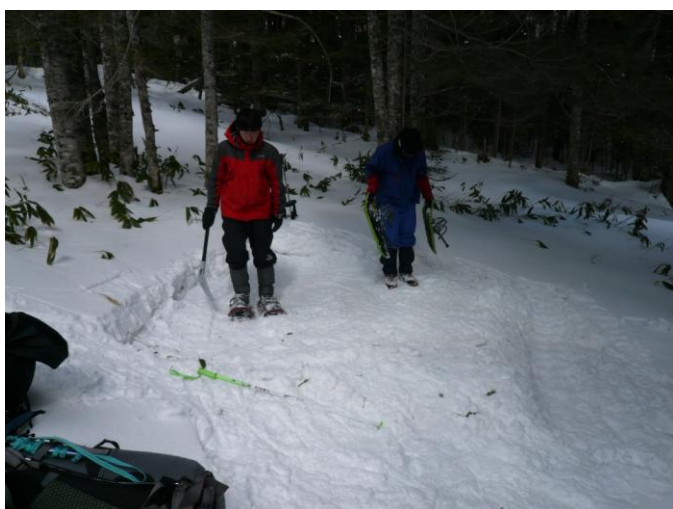
テント場へ向かう。池の周囲には美しい樹林が広がっている。



到着が早かったので、この日はゆっくりと過ごした。疲れていたが、テントの周囲には美しい樹林が広がり、気分が良かった。



双子池のテン場



整地する三枝（左）と三谷